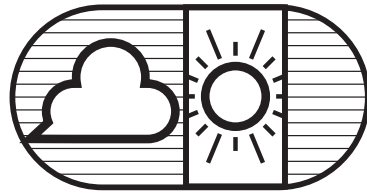


猛暑特需に懸命の対応

梅干・梅漬



くもりとききはれ

となり、熱中症対策で注目を浴びた。消費者が梅干の効能を思い出し、メーカーは旺盛な需要に対応した。単に天候頼みではなく、業界が常日頃から梅干の効果・効能について情報発信し

17年9月～18年8月の市場規模は7%増の450億円（推定）となった。17年の中国梅大凶作、紀州梅不作を受けて、17年秋から18年春にかけて製品の内容量調整や価格改定が実施された。18年の夏は全国的に猛暑

続けていることが大きい。梅産地行政のバックアップも忘れてはならない。課題は引き続き原料産地の維持である。

梅製品出荷額

(本紙推定)

